

●地域環境科学部生産環境工学科（高一種免（農業））

①教員養成に対する理念

本学の教育理念である「実学主義」に基づいたカリキュラムにより、多くの実験・演習科目を通して、理論と実現象の対比から農業教育に対する理解を深めさせ、自ら創意・工夫のできる教員として、高等学校教育の農業に関する授業や生徒指導にあたる教員を養成することを理念としている。さらに、教育現場で発生している教員と生徒および生徒同士の人間関係に起因する様々な問題への対処や、農業をとおした環境への理解向上にも資する教員養成を目指している。

②教職課程の設置趣旨

生産環境工学科は、21世紀最大の課題である「食料」、「環境」、「資源」、「エネルギー」などの諸問題に対して、「土」の文化と「農」の多面的意義を原点として、地域から地球へと考えることに重点を置きながら、人類の生存と発展を支えるための人材養成を基本的な学習・教育目標としている。

本学科の特色としては、JABEE(日本技術者教育認定機構)より認定された農業工学プログラムを有していることが挙げられる。このプログラムは学科で開講されている科目のうち、プログラム修了に必要な科目を履修することによって達成されるもので、すなわち本学科のカリキュラムを構成している科目は、農業工学教育として十分なものであることが保証されている。

本学科のカリキュラムのうち、農業教育に関連した科目の構成は次のようになっている。

- 1)総合教育科目では、情報基礎、語学関連科目、ビジネスマナー、科学の歴史、生物学、科学、物理学、地学、統計学等を配置し、教員としての基礎的な常識および農業教育の基礎を習得させる。
- 2)専門基礎科目では、数学系科目、力学関連科目、作物栽培、測量学および、測量実習、基礎実験などを配置し、農業教員に必要な専門基礎知識の修得と、実験・演習による理論的思考の基礎を習得させる。
- 3)専門コア科目では、土、水、農業土木、農業機械に関連した科目を配置し、農業教員に必要な地域資源、環境情報、農業基盤、農業機械に関する専門知識を習得させる。
- 4)総合化科目では、演習、実験、卒業論文を配置し、習得した知識の応用と、理論的思考能力およびコミュニケーション能力を習得させる。

以上のように、本学科のカリキュラムでは農業教育に関連した科目を多数配置している。したがって本学科を修了することで、農業教員として必要な専門知識を習得できるばかりでなく、教員として必要な人格およびコミュニケーション能力を有する人材が養成される。